



環境学習都市宣言の理念に基づき、

100年後も世界に誇れるまちを育てます。

西宮市長 山田 知

「学びあい」「参画・協働」によるまちづくり

皆さんは、本市が環境学習都市宣言を行ったことをご存じでしょうか。市民と事業者、そして行政が協力しあって、環境学習を軸にした持続可能なまちづくりを目指そうというものです。この理念の実現に向けて、具体的な行動を定めた「西宮市新環境計画」が平成17年度よりスタートしました。市民、事業者、行政がそれぞれの立場で新環境計画に掲げられた8つの環境目標の実現に向けて、様々な取り組みを進めています。

新環境計画の推進は市民、事業者、行政で構成される「環境計画推進パートナーシップ会議」が母体となり、「環境計画評価会議」が新環境計画の評価、監査を担います。また、地域が自主的に環境課題を捉え、検討する場として「エココミュニティ会議」を提唱し、その設置を働きかけています。平成18年3月には、学文エココミュニティ会議が立ち上がり、地域住民による取り組みが始まっています。

豊かな自然を次世代に

人間の活動が生み出す環境問題は、時代の移り変わりとともにその内容を変化させ、人々の暮らしや自然に様々な影響を与えてきました。

地球温暖化もそのひとつであり、日本の平均気温はこの100年間で1℃上昇しました。世界平均の0.6℃と比べると倍近く上昇しています。このままでは、日本は亜熱帯地域になり、四季がなくなってしまうのでは、とも言われています。四季折々、多彩な表情で私たち市民の目を楽しませてくれる西宮の山、川、海の自然も例外ではありません。

環境を守り、改善し、子どもたちにも季節を感じてもらえるように、次世代に豊かな環境を引き継ぐことが私たちの責任です。

「環境学習都市・にしのみや」に向けて

「人を育み、人が育む 環境学習都市・にしのみや」の実現に向けて、新環境計画はまさに一步を踏み出したところでは、この「環境レポート概要版」は、市民、事業者、行政それぞれの「第一歩」を皆さまにご紹介し、環境に興味を持っていただけるよう編集したものです。本書を通して、何かを感じ、環境に配慮した取り組みをさらに行っていただければ、と思います。行政としても「環境学習都市・にしのみや」の名にふさわしい施策を一層行ってまいります。

今後とも本市環境行政へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。